

オプトアウト様式

研究課題名	ペーシング部位によるルーフラインブロックの誤診率の検討
研究機関および研究責任者	さいたま赤十字病院 循環器内科 副部長 高木崇光
研究代表施設および代表研究者	さいたま赤十字病院 循環器内科 副部長 高木崇光
研究期間	2022 年 6 月 1 日-2024 年 12 月 31 日
研究の目的と意義	心房細動に対するカテーテルアブレーションの方法として左房後壁隔離がある。両側の肺静脈隔離後にルーフラインおよびボトムラインを追加することで左房の後壁を一括に電氣的に隔離する方法である。ルーフライン焼灼部位は心筋が二層に重なっているため、貫壁性のブロックラインを作成することは困難であり、ライン上に非常に遅い伝導間隙（ギャップ）を残すことがある。貫壁性か否かは心房内からペーシングを行い、興奮伝導を 3D で表示することで確認する。しかしながらペーシング部位によっては貫壁性でないにもかかわらず、貫壁性ブロックであると誤診されてしまうことがある。今回、ペーシング部位を変えることでブロックの誤診率が改善するかを検討する。
本研究の対象患者	2022 年 6 月 1 日-2024 年 12 月 31 日の間に当院循環器内科で心房細動に対してカテーテルアブレーションを施行した患者
提供していただく情報	年齢、性別、既往歴、治療内容、心エコー所見、採血所見、アブレーション所見（ルーフライン作成後の各所からのペーシングでの 3D マッピング）
研究内容	介入・侵襲を伴わない後ろ向き観察研究
個人情報の取り扱い	研究実施に係わる情報を取り扱う際には予め患者の個人情報とは無関係な番号を付して情報を管理する。患者の個人情報が院外へ漏れないように十分配慮する。
問い合わせ先	所属：さいたま赤十字病院 循環器内科 副部長 氏名：高木崇光 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5 電話：048-852-1111